

特別寄稿

「第26回日本口腔・咽頭科学会特別講演 ザンビアの食糧・生活事情と医療支援：私達一人ひとりができること」

アフリカの医療事情から世界を考える： 医療の枠を超えて私たちにできること

吉田 修

特定非営利活動法人 TICO (Tokushima International Cooperation) 代表理事
医療法人さくら診療所理事長

医師として国際協力に携わる中で得た視点について述べるとともに、これから医療に関わるものとしてのどのような取り組みができるのか考察する。

キーワード：国際医療活動，先進国，途上国，地球温暖化

1990年より青年海外協力隊に参加しアフリカの小国マラウイの Zomba General Hospital で2年間外科医として働き、帰国後は岡山に本部があるアジア医師連絡協議会（現在は AMDA）のスタッフとして様々な緊急救援を行った。1995年よりザンビアの地域保健医療活動に関わり、1997年より TICO (Tokushima International Cooperation, 以下 TICO) として本格的にザンビアでの活動が始まった。

圧倒的な医療インフラの不備、人材不足、衛生状態の悪さ、医療へのアクセスの困難さなど、問題は山積みであった。地域住民が正しい知識を得て保健活動に参加し、自ら地域を良くして行こう、それができるのだ、と考える意識改革が必須である。

この活動中に2度の大規模で深刻な干ばつがアフリカで起こった。国連の発表では、2002年は南部アフリカ一体で1,200万人が被災し、ザンビアだけで200万人が飢えていた。地球温暖化がもたらす気候変動の恐怖を目の当たりにした。これまで温室効果ガスを排出してきたのは主に先進国であり、我々の豊かで便利とされている暮らしの結果、アフリカで子供達が栄養失調に陥っている。日本でも、夏の異常な暑さ、台風や竜巻など地球温暖化の影響を肌で感じるようになった。このままでは最終的に海面上昇が起り、世界の主要都市が水没するのも時間の問題である。

また、緊急支援で訪れたレバノン、ルワンダ、モザンビークでは戦争の悲惨さを思い知らされた。破壊と殺戮が戦争であるが、常に一般市民が犠牲になり、略奪やレイプ、拉致され少年兵として最前線に立たされるといった問題もつきまとう。現在でも世界のあちこちで戦争が

続いている。人類の歴史を振り返るとまさに戦争の歴史である。2度の世界大戦を経て、戦争を回避するための国際的な取り組みがなされるようになったが、未だ効果的な対処ができず戦争を止められない。それどころか、紛争の背後には資源獲得をもくろむ先進国の利害が絡んでいる場合が多い。

人々が健康的に暮らして行くためには、医療や衛生のみならず、戦争・紛争の回避、地球温暖化対策、貧困対策が重要である。そのためには人材育成が急務であり、基礎教育に加え、保健、環境、平和なども含めた総合的な教育は必要不可欠である。

いずれの分野においても途上国から見れば、先進国の協力が必要である。しかし、これらの問題は、人類共通の地球規模の問題として捉えるべきものであり、途上国の問題に先進国が協力するという視点だけでは解決できない。国際的な取り組みがなくてはならない。特に、地球温暖化対策においては、これまでふんだんに化石燃料を使ってきた先進国と、これから経済発展しエネルギーを必要とする途上国との利害が衝突し、調整がつかない。しかし、適正な地球環境があつての経済活動であることは明白である。どちらの陣営も長期的な視点で利害を考えるべきであるが、特に先進国の責任が重く、きわめて大胆なエネルギー政策とライフスタイルの転換を迫られている。

医療に関わる我々、すなわち人々の健康を守ることを仕事とするものは、そのような視点を持って活動すべきである。

国際医療活動には、公衆衛生学的なアプローチや行政システムの整備、研究、病院の建設など様々なアプロ

チがあるが、TICOが行っているものは、地域医療であり、日本の地域医療と相通じるものである。すなわち、個人のニーズの総和である地域のニーズを汲み取り、地域の資源、特に人的資源を活用し、できるだけ効率よく成果を上げる。医療行為にこだわらず総合的な視点で行われるべきものである。

さくら診療所は国際医療活動を志す医師が集まり運営されている。19床の有床診療所であり、地域の多様なニーズに答えるべく、救急車も24時間受け入れ、デイケア、デイサービス、重症者も受け入れる有料老人ホーム、病児保育、在宅サービスも提供している。また、環境に最大限配慮し、可能な限りのソーラー発電、木質チップボイラー・ペレットストーブ・薪ストーブの導入、徳島県産の杉や2重ガラスの窓を使った建築、もちろん省エネにも取り組んでいる。さらに、無農薬・無化学肥料の農業も行っており、安全な食事を診療所で提供するとともに、地域の人々にも利用してもらえるようコミュニティカフェも併設している。

TICOでは毎月「地球人カレッジ」と呼ぶ学習会を10年以上開催しており、各地からユニークな活動をしている講師を招いている。地球規模で考えながら地域で活動していくことをテーマに、きっかけ作りの場を提供することを目的としている。また、多くの学生が全国から集まり徳島合宿とザンビアスタディーツアーに参加し学んでいる。若い人達の自由な発想に期待したい。

さらには、有志とともに「市民がつくるエネルギー」という会を結成し、自然エネルギーの普及を行ってい

る。既に1.2メガの太陽光発電所が稼働し、出資者には4%の配当が出ている。第2弾として発電事業に1万円の寄付をいただき、地域の野菜でお返しする計画が進行中である。自然エネルギーが増え、地域の農業が元気になる、win-winなシステムである。

そして、「日本ザンビア友好病院」の開設を計画している。より良き医療を提供し、援助に頼らず経営して行ける病院である。ザンビアも急激な経済成長を遂げており、良き医療のニーズが高まっているが、国内にCTは2台しかないようだ。ここでは日本の国際医療活動を志す若い医師の国際総合医研修も行い、アフリカの若い医師達と共に学ぶ機会を提供する。ザンビアでもライフスタイルの変化に伴い糖尿病など生活習慣病が急増しており、日本の医療は大いに貢献できる。また、急増する交通外傷にも対応する外傷治療センターを併設したい。

「Think globally, act locally」を実践しながら、しなかった後悔より、積極的な失敗を楽しみたい。

最後に、非常に厳しい状況のアフリカにも、日々精一杯、明るく楽しく生き生きと暮らす多くの人々がいて、沢山のことを学ばせていただいていることを付け加えたい。

(平成25年11月19日 受理)

別刷請求先:

〒779-3403 吉野川市山川町前川212-6
医療法人さくら診療所
吉田 修

Thinking about the world based on the medical situation in Africa:

What we can do beyond the boundaries of medicine

Osamu Yoshida

Sakura Clinic

Key words : international medical activity, developed country, developing country, global warming